

四半期報告書の訂正報告書

(第41期第1四半期)

ウチタ エスコ 株式会社

東京都江東区木場五丁目8番40号

四半期報告書の訂正報告書

- 1 本書は四半期報告書の訂正報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書の訂正報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書の訂正報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年4月4日

【四半期会計期間】 第41期第1四半期(自平成24年7月21日 至平成24年10月20日)

【会社名】 ウチダエスコ株式会社

【英訳名】 UCHIDA ESCO Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 江口英則

【本店の所在の場所】 東京都江東区木場五丁目8番40号

(上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っております。)

【電話番号】 —

【事務連絡者氏名】 —

【最寄りの連絡場所】 千葉県浦安市北栄一丁目10番4号

【電話番号】 047(382)4111

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員管理本部長 久保博幸

【縦覧に供する場所】 ウチダエスコ株式会社東京支社
(千葉県浦安市北栄一丁目10番4号)

ウチダエスコ株式会社大阪事業所
(大阪府大阪市中央区和泉町二丁目2番2号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注)大阪事業所は法定の縦覧場所ではありませんが、投資家の便宜のため縦覧に供する場所としてあります。

1 【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

1. 訂正の経緯

平成26年1月末に原価の付け替えによる不適切な会計処理がソリューションビジネス事業部公共営業部で発見されたため、当社による調査を実施してまいりました。その結果、平成25年7月期以前においても、同様な不適切な会計処理が行われていたことが判明したため、平成26年2月27日、不適切な会計処理が判明した旨を開示するとともに、平成26年3月3日に社外の専門家を含む社内調査委員会を設置し、その旨を開示いたしました。

同日以降、社内調査委員会は不適切な会計処理の内容把握、原因及び動機の解明、再発防止策の提案等を目的として調査を実施し、平成26年4月4日、当社取締役会は社内調査委員会より調査結果を記載した調査報告書を受領いたしました。

平成26年4月4日付の社内調査委員会による調査報告書の指摘を受け、過去に提出いたしました有価証券報告書に記載されている連結財務諸表及び財務諸表に含まれる不適切な会計処理を訂正し、有価証券報告書等の訂正報告書を提出することを、同日の取締役会の承認を経て決定いたしました。

2. 会計処理

連結財務諸表及び財務諸表において、原価の付け替えにより過大又は過少に計上されていた「売上高」、「売上原価」の金額を修正するとともに、関連する「売掛金」、「仕掛品」の残高を修正し、その他必要と認められる修正を行いました。

これらの決算訂正により、当社が平成24年12月3日付で提出いたしました第41期第1四半期（自平成24年7月21日 至 平成24年10月20日）四半期報告書の記載事項の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

訂正後の四半期連結財務諸表については、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

なお、四半期連結財務諸表の記載内容に係る訂正箇所についてはXBRLの修正も行いましたので、併せて修正後のXBRLデータ一式（表示情報ファイルを含む）を提出いたします。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

3 【訂正箇所】

訂正箇所は____を付して表示しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第1四半期 連結累計期間	第41期 第1四半期 連結累計期間	第40期
会計期間	自 平成23年7月21日 至 平成23年10月20日	自 平成24年7月21日 至 平成24年10月20日	自 平成23年7月21日 至 平成24年7月20日
売上高 (千円)	<u>3,129,320</u>	<u>3,118,693</u>	<u>12,209,362</u>
経常利益 (千円)	<u>170,832</u>	<u>254,773</u>	<u>611,420</u>
四半期(当期)純利益 (千円)	<u>90,346</u>	<u>151,168</u>	<u>297,727</u>
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	<u>88,843</u>	<u>152,603</u>	<u>295,577</u>
純資産額 (千円)	<u>2,822,529</u>	<u>3,127,920</u>	<u>3,029,264</u>
総資産額 (千円)	<u>7,589,749</u>	<u>7,796,765</u>	<u>7,906,068</u>
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	<u>25.12</u>	<u>42.03</u>	<u>82.78</u>
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	<u>37.2</u>	<u>40.1</u>	<u>38.3</u>

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当連結グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、欧州債務問題を背景に中国など主要新興国も含めた世界的な景気減速や円高の長期化などの要因により、輸出や生産が落ち込むなど低調な状況で推移しました。

このような環境下、当連結グループは第8次中期経営計画（平成22年8月～平成25年7月）の基本方針である「ITの技術変革への対応」、「マルチベンダーの推進」、「企業価値の増大」を推進することにより、事業規模の拡大・収益力の強化に努めています。

計画の最終年次に当る当連結会計年度においては、クラウドコンピューティングに対応するサーバーやデスクトップ等の仮想化案件への取り組み強化など、高付加価値技術戦略の推進による「第二のエンジン点火」、「サービス・サポート品質の向上」、「経営基盤の更なる強化」を重点施策に掲げ、その着実な達成に向けて取り組んでいます。

当第1四半期連結累計期間の経営成績につきましては、中核のフィールドサポート事業が堅調に推移し、また、オフィスシステム事業においても事業採算が改善した結果、売上高は31億1千8百万円（前年同四半期比0.3%減）、営業利益は2億4千9百万円（同48.7%増）、経常利益は2億5千4百万円（同49.1%増）、四半期純利益は1億5千1百万円（同67.3%増）となりました。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメント別概況は次のとおりであります。

(フィールドサポート事業)

「量の拡大」（第一のエンジン）として、コンピュータメーカーやシステムインテグレーターへの営業を強化するとともに、更なる生産性の向上に取り組み、保守・ネットワーク構築案件の取扱量の拡大に努めています。また、「質の転換」（第二のエンジン）として、CE（カスタマーエンジニア）のSE化の推進並びにクラウドコンピューティング市場に対応できる仮想化技術者の増強をはかるとともに、仮想化案件の獲得に努めています。

当第1四半期連結累計期間の業績は、学校市場向けICT事業が堅調に推移するとともに、民間市場においてもコンピュータメーカーやシステムインテグレーターからの保守・ネットワーク・BPO案件の取扱いが増加した結果、売上高は20億6千2百万円（前年同四半期比3.4%増）、営業利益は3億円（同32.3%増）となりました。

(オフィスシステム事業)

「売上規模の拡大」として、きめ細かな販売促進活動による直接販売の強化、顧客ニーズに即したWebビジネス（Net2B）の推進による受注拡大に取り組んでいます。また、「横展開」として、オフィスシステムに加え、当社の有する様々なICT関連サービス&サポートを提供するワンストップの商談推進に取り組んでいます。

当第1四半期連結累計期間の業績は、首都圏におけるオフィス移転案件の増加及びOAサプライの取引採算が改善した結果、売上高は8億1千7百万円（前年同四半期比1.4%減）、営業利益は2千6百万円（同212.4%増）となりました。

(ソフトウェアサポート事業)

「サポート品質の向上」として、見積精度の向上とプロジェクトマネジメントシステム（P r o m i s e）の運用を推し進めることにより、収益の改善に取り組んでいます。

当第1四半期連結累計期間の業績は、受注活動の強化に努めましたが、前期の大型の市町村サポート案件の影響で期初の受注残が低調であったために、売上高は2億3千8百万円（前年同四半期比21.6%減）、営業損失7千7百万円（前年同四半期は営業損失6千7百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、77億9千6百万円と前連結会計年度末比1億9百万円減少しました。これは流動資産が、受取手形の増加（7千6百万円）、繰延税金資産の増加（6千5百万円）等はありませんでしたが、現預金の減少（2億5千6百万円）、売掛金の減少（4千4百万円）等により9千2百万円減少し、固定資産が、1千6百万円減少したことによります。流動負債は、賞与引当金の増加（1億8千万円）等はありませんでしたが、支払手形の減少（1億7千1百万円）、買掛金の減少（1億6千9百万円）、短期借入金の減少（9千万円）等により前連結会計年度末比2億1千1百万円減少し、固定負債は、3百万円増加しました。純資産は、31億2千7百万円と前連結会計年度末比9千8百万円増加しました。

この結果、自己資本比率は、40.1%と前連結会計年度末比1.8ポイント上昇しております。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

(4) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数の著しい増減はありません。

(5) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績の著しい変動はありません。

(6) 主要な設備

当第1四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変動はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,400,000
計	14,400,000

② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年10月20日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年12月3日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,600,000	3,600,000	大阪証券取引所 JASDAQ(スタンダード)	単元株式数は1,000株であります。
計	3,600,000	3,600,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年7月21日～ 平成24年10月20日	—	3,600,000	—	334,000	—	300,080

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年7月20日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成24年7月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己所有株式) 普通株式 3,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式3,594,000	3,594	—
単元未満株式	普通株式 3,000	—	—
発行済株式総数	3,600,000	—	—
総株主の議決権	—	3,594	—

(注)「単元未満株式」には当社所有の自己株式が473株含まれております。

② 【自己株式等】

平成24年7月20日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
ウチダエスコ株式会社	東京都江東区佐賀1-6-2	3,000	—	3,000	0.08
計	—	3,000	—	3,000	0.08

(注) 上記自己保有株式には、単元未満株式473株は含まれておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成24年7月21日から平成24年10月20日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年7月21日から平成24年10月20日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

また、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年7月20日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年10月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,821,230	2,564,621
受取手形及び売掛金	<u>3,037,813</u>	※1 <u>3,069,126</u>
電子記録債権	—	17,858
商品	38,718	45,796
仕掛品	132,108	<u>141,985</u>
原材料及び貯蔵品	2,934	4,099
繰延税金資産	<u>167,280</u>	<u>232,605</u>
その他	57,736	89,521
貸倒引当金	<u>△1,976</u>	<u>△2,129</u>
流動資産合計	<u>6,255,846</u>	<u>6,163,485</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	<u>264,409</u>	<u>259,757</u>
工具、器具及び備品（純額）	56,947	51,633
土地	<u>737,854</u>	<u>737,854</u>
有形固定資産合計	<u>1,059,211</u>	<u>1,049,245</u>
無形固定資産	94,716	85,412
投資その他の資産		
投資有価証券	59,410	61,937
敷金及び保証金	110,299	107,625
繰延税金資産	<u>308,661</u>	<u>308,612</u>
その他	23,795	26,269
貸倒引当金	<u>△5,873</u>	<u>△5,822</u>
投資その他の資産合計	<u>496,293</u>	<u>498,622</u>
固定資産合計	<u>1,650,221</u>	<u>1,633,280</u>
資産合計	<u>7,906,068</u>	<u>7,796,765</u>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年7月20日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年10月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,647,404	※1 1,306,705
短期借入金	310,000	220,000
未払金	168,162	148,394
未払費用	348,405	349,528
未払法人税等	113,646	170,719
前受金	1,020,779	1,049,587
賞与引当金	286,295	467,168
工事損失引当金	3,514	1,940
その他	98,748	71,275
流動負債合計	3,996,955	3,785,320
固定負債		
退職給付引当金	851,326	854,412
役員退職慰労引当金	17,943	18,615
長期未払金	10,252	10,252
負ののれん	325	244
固定負債合計	879,848	883,525
負債合計	4,876,803	4,668,845
純資産の部		
株主資本		
資本金	334,000	334,000
資本剰余金	300,080	300,080
利益剰余金	2,398,902	2,496,122
自己株式	△1,303	△1,303
株主資本合計	3,031,679	3,128,899
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,414	△979
その他の包括利益累計額合計	△2,414	△979
純資産合計	3,029,264	3,127,920
負債純資産合計	7,906,068	7,796,765

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年7月21日 至平成23年10月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年7月21日 至平成24年10月20日)
売上高	3,129,320	3,118,693
売上原価	2,256,844	2,164,538
売上総利益	872,475	954,155
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	3,586	3,843
給料及び手当	300,964	303,257
賞与引当金繰入額	90,140	92,481
退職給付費用	29,957	23,670
役員退職慰労引当金繰入額	757	672
福利厚生費	27,339	29,319
賃借料	29,888	29,075
減価償却費	18,453	15,399
その他	203,475	206,819
販売費及び一般管理費合計	704,564	704,538
営業利益	167,911	249,617
営業外収益		
受取利息	43	56
受取配当金	1,250	2,649
受取手数料	1,127	1,759
受取保険金	831	154
負ののれん償却額	81	81
その他	456	1,481
営業外収益合計	3,791	6,182
営業外費用		
支払利息	727	706
その他	144	320
営業外費用合計	871	1,026
経常利益	170,832	254,773
特別損失		
固定資産除却損	※1 48	※1 22
特別損失合計	48	22
税金等調整前四半期純利益	170,784	254,751
法人税、住民税及び事業税	149,023	169,652
法人税等調整額	△68,585	△66,069
法人税等合計	80,438	103,582
少数株主損益調整前四半期純利益	90,346	151,168
四半期純利益	90,346	151,168

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年7月21日 至平成23年10月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年7月21日 至平成24年10月20日)
少数株主損益調整前四半期純利益	<u>90,346</u>	<u>151,168</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	<u>△1,502</u>	<u>1,435</u>
その他の包括利益合計	<u>△1,502</u>	<u>1,435</u>
四半期包括利益	<u>88,843</u>	<u>152,603</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>88,843</u>	<u>152,603</u>
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

当第1四半期連結累計期間 (自平成24年7月21日 至 平成24年10月20日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年7月21日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 この変更に伴う損益への影響は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

(訂正報告書の提出について)

当社の不適切な会計処理について、当社は金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき過去に提出いたしました四半期報告書に記載されている四半期連結財務諸表に含まれる不適切な会計処理を訂正し、四半期報告書の訂正報告書を提出することを決定しました。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- *1. 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当第1四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末残高から除かれております。

	前連結会計年度 (平成24年7月20日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年10月20日)
受取手形	—	147,918千円
支払手形	—	87,517千円

(四半期連結損益計算書関係)

- *1. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年7月21日 至平成23年10月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年7月21日 至平成24年10月20日)
工具、器具及び備品	48千円	22千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年7月21日 至 平成23年10月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年7月21日 至 平成24年10月20日)
減価償却費	26,798千円	22,762千円
負ののれんの償却額	△81千円	△81千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間（自 平成23年7月21日 至 平成23年10月20日）

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年10月13日 定時株主総会	普通株式	53,947	15.00	平成23年7月20日	平成23年10月14日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第1四半期連結累計期間（自 平成24年7月21日 至 平成24年10月20日）

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年10月11日 定時株主総会	普通株式	53,947	15.00	平成24年7月20日	平成24年10月12日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成23年7月21日 至平成23年10月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	フィールド サポート事業	オフィス システム事業	ソフトウェア サポート事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	<u>1,994,983</u>	<u>829,484</u>	<u>304,851</u>	<u>3,129,320</u>	—	<u>3,129,320</u>
セグメント間の内部売上高 又は振替高	69,662	2,988	39,757	112,408	△112,408	—
計	<u>2,064,646</u>	<u>832,473</u>	<u>344,609</u>	<u>3,241,728</u>	△112,408	<u>3,129,320</u>
セグメント利益又は損失(△)	<u>226,997</u>	<u>8,513</u>	<u>△67,598</u>	<u>167,911</u>	—	<u>167,911</u>

(注) 1. 全ての営業費用は各報告セグメントに配賦しているため、セグメント利益の調整額はありません。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成24年7月21日 至平成24年10月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	フィールド サポート事業	オフィス システム事業	ソフトウェア サポート事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	<u>2,062,176</u>	<u>817,540</u>	238,976	<u>3,118,693</u>	—	<u>3,118,693</u>
セグメント間の内部売上高 又は振替高	46,387	1,976	35,381	83,745	△83,745	—
計	<u>2,108,564</u>	<u>819,517</u>	274,358	<u>3,202,439</u>	△83,745	<u>3,118,693</u>
セグメント利益又は損失(△)	<u>300,271</u>	<u>26,594</u>	<u>△77,248</u>	<u>249,617</u>	—	<u>249,617</u>

(注) 1. 全ての営業費用は各報告セグメントに配賦しているため、セグメント利益の調整額はありません。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年7月21日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更したため、報告セグメントの減価償却方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

なお、この変更に伴う各セグメント利益及び損失に与える影響は軽微であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年7月21日 至平成23年10月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年7月21日 至平成24年10月20日)
1株当たり四半期純利益金額	<u>25円12銭</u>	<u>42円03銭</u>
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	<u>90,346</u>	<u>151,168</u>
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	<u>90,346</u>	<u>151,168</u>
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,596	3,596

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年4月4日

ウチダエスコ株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 富 永 貴 雄 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 成 田 孝 行 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているウチダエスコ株式会社の平成24年7月21日から平成25年7月20日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成24年7月21日から平成24年10月20日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成24年7月21日から平成24年10月20日まで)に係る訂正後の四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ウチダエスコ株式会社及び連結子会社の平成24年10月20日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

追加情報に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して平成24年12月3日に四半期レビュー報告書を提出した。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年4月4日
【会社名】	ウチダエスコ株式会社
【英訳名】	UCHIDA ESCO Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 江口英則
【最高財務責任者の役職氏名】	—
【本店の所在の場所】	東京都江東区木場五丁目8番40号
【縦覧に供する場所】	ウチダエスコ株式会社東京支社 (千葉県浦安市北栄一丁目10番4号) ウチダエスコ株式会社大阪事業所 (大阪府大阪市和泉町二丁目2番2号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪府大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

(注) 大阪事業所は法定の縦覧場所ではありませんが、投資家の便宜のため縦覧に供する場所としてあります。

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 江口英則は、当社の第41期第1四半期(自平成24年7月21日 至 平成24年10月20日)の四半期報告書の訂正報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

